

団結力で破産を乗り越え職場確保した黒石タクシー労組 自主経営のユニオン交通として再出発 市民の愛されるタクシーを目指す

(青森地連)

2014年3月1日 倒産から自主独立経営として再スタートした黒石タクシー労組



青森地連・黒石タクシー労働組合（中村勝彦委員長）は3月1日、昨年10月に破産手続きに入った黒石タクシーの車両8台と黒石市山形町の営業所を買い上げ、自主経営会社のユニオン交通黒石タクシー営業所として職場を確保し、再スタートを切りました。

この日の開所式ではユニオン交通・谷地田恒夫社長、青森地連・江良實書記長らが駆けつけ、厳しい状況の中で団結を守り抜き再出発にこぎ着けた組合員の労をねぎらうとともに、地域の利用者に信頼され、愛されるタクシー会社として全員が一丸となって奮闘するよう激励しました。（左の写真提供：陸奥新報）

青森地連で自主経営職場を作るのは今回が初となります。

昨年秋に数億円の負債を抱え倒産した黒石タクシーは、従業員の賃金と退職金の支払いもできないまま破産手続きに入り、営業も止まりました。

黒石タクシー労組は労働債権の確保に奔走し、「賃金確保法」の適用を受け、労働債権の一部（8割）を確保するとともに、執行部を先頭に組合員全員で資金を出し合い、職場の自主的な確保を目指して全力をあげてきました。

こうした中、2004年に自主再建を果たした秋田県内のユニオン交通の協力を取り付け、この度、ユニオン交通の黒石タクシー営業所として立ち上げました。

青森地連の江良實書記長と黒石労組の石沢善孝書記長が中心となり、運行管理者・整備管理者等を確保し、本部の支援の下、昨年12月に東北運輸局青森運輸支局に営業所新設の認可申請を提出。本年2月6日に認可を受けました。



その後、3月1日の開業を目指し、旧黒石タクシーの電話番号も使用できるようにしながら、社屋の改築や車両整備等を急ピッチで準備し、この日の開所式を迎えました。

この日、午前8時から行われた開所式で谷地田社長は「全自交や多くの労組の支援で新たな出発の日を迎えることができた。市民に愛される会社になるよう、一人ひとりが社長のつもりで頑張ってもらいたい」と挨拶しました。その後、青森地連の江良書記長と秋田地連の鈴木書記長が祝辞を述べ、業務を開始し、大正時代創業で市民になじみのある旧黒石タクシーのシルバー色のタクシー車両が再び黒石の街を走り始めました。

ユニオン交通の開業は、営業所の名前に「黒石タクシー」の名前を残したことに加え、利用者に浸透している旧黒石タクシーの電話番号もそのまま使用できるようになったことで利用者に親しみをもって迎えられました。また、連合青森や青森県交運労協なども青森地連と黒石労組の職場確保の取り組みを当初から支援に乗り出しており、地域の労組関係者の協力が現場の組合員を励ましています。

黒石タクシー労組は、数年前から賃金遅配に悩まされながら、裁判闘争や労働委員会闘争を長年闘ってきた労働組合であり、強い団結力を持っています。今回の職場確保においても一人の脱落も無く、全自交の旗を守り抜いた事には大きな意義があります。